



井崎敦子の 市会だより



画期的決議！

5月市会では、国に要望する意見書8つ、京都市会として意思表示をする決議が3つ、確定しました。意見書は、国民健康保険制度に係る財政支援の拡充等を求める意見書、米国の関税措置に対応した中小企業等支援策の拡充を求める意見書、米価の抑制及び米の安定供給を求める意見書など、どれもとても重要な内容となっています。ぜひ一読ください。【5月市会／意見書・決議】▼



「ひめゆり発言」と、北陸新幹線市内 大深度トンネルルートに関する決議

そして今回、大変画期的な決議がなされました。これは、超党派で賛成多数を取って確定したものです。大会派だけでなく、少数会派の議員さんたちも何日にもわたって調整会議で尽力された結果です。私は無所属・無会派なので調整会議には参加できなかったのですが、最終本会議でこの決議に賛成し、起立しました。決議が通った時は本当に嬉しく、尽力された議員の皆さんが本当に頼もしく思えました。左記に全文を掲載します。←



沖縄戦の歴史に 真摯に向き合うことを求める決議

(令和7年6月6日提出)

令和7年5月3日の憲法記念日に那覇市で開催されたシンポジウムにおいて、西田昌司参議院議員は、沖縄県のひめゆりの塔の展示をめぐる、展示の説明が「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり(学徒)隊が死に、米軍が入ってきて、沖縄が解放された」という文脈で書いている」として「歴史の書換え」などと発言をされた。この発言については、沖縄県議会が抗議の決議を行うなど、多くの抗議の声が上がりましたが、石破総理も歴史が書き換えられたなどという発言については「認識を異にする」と衆議院予算委員会でも答弁しており、沖縄県の玉城知事と面会した際、「ひめゆりの塔」の説明を巡る西田議員の発言に「大変申し訳ない発言で、自民党総裁として深くおわびする」と陳謝している。西田議員の発言や見解は、沖縄県民の心を深く傷つけるものと言わざるを得ない。

これまでから日本国政府は、談話や国会答弁などで、先の大戦において、沖縄は国内最大の地上戦を経験し、多くの方々が犠牲となり、筆舌に尽くし難い苦難を経験されたこと、何の罪もない人々に計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実があること、悲惨な経緯を風化させることなく、次の世代に継承することが重要であることなどを、公式な立場として表明してきた。また、沖縄戦においては京都出身者の多くも犠牲となり、戦後、京都の多くの議員の先人たちが党派を超え沖縄と京都とを結び文化と友好との絆を深めてきた。京都市会として、京都選出の議員がこのような発言をしたことに強い遺憾の意を表明するとともに、沖縄県民の心情に寄り添い、沖縄戦の歴史に真摯に向き合うことを求めるものである。以上、決議する。

北陸新幹線の 京都市内大深度 トンネルルートへの 反対決議

(令和7年6月6日提出)

現在、北陸新幹線の敦賀から大阪への延伸に関して、いわゆる小浜ルートとして敦賀から小浜を経由し京都市内の大深度地下にトンネルを建設する計画について、環境アセスメントが進められている。この計画については、市民はもろろんな様々な団体や専門家から、問題があり撤回すべきだとの強い意見が本市へも届けられているところである。地下水への影響、ヒ素を含む可能性のある大量の残土の処理、工事期間中の渋滞、地元負担の非提示、住民への情報非開示、歴史的・文化的建造物への影響、根本的なB/Cつまり採算性などについて問題のある状況で、現在の計画をこのまま進めることは、京都市の未来に向けて重大な問題を招くと考えるため、京都市内大深度トンネルルートへの反対を表明する。以上、決議する。

井崎の 視点

選挙と演説 参議院選挙を終えて

これまでは「政治に無関心が問題」だったけれど、SNSによってこの数年で情勢は大きく変化してきました。憲法第九十九条には、「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」となっていますが、憲法を大きく逸脱した国会議員の演説、それって憲法違反ではないの?という思いで、先の参議院選挙を見守りました。

そもそも、どうして政治家は演説するのでしょうか?行政側は、私たちの納めた税金を使って肅々と実務をこなしていて、演説なんかしません。行政がしっかりと憲法に則って公正に仕事をしているかチェックするのが議員の仕事なのだと思うのだけれど、こちら側はよく演説をする。演説で支持を集めます。暮らしのこと、子どもの教育、親の介護、自分の保険や年金、ごみの処理、水道の管理、下水の処理などなどのこと(何を公共でやるかの議論が必要なのですが)、こまごまと取り決めて税金で運営をしており、公正に、環境に配慮して、公害を出さず、誰の人權も侵害せず、誰もが自由に安心して暮らせる社会を維持していくために、公共の仕事をチェックし、提言し、より良くしていくのが議員の仕事だとしたら、どうしてそんなに政党に分かれて、どうしてそんなに演説しているのだから?と改めて思います。

日々、視野に入ってくる動画やSNSでの言説や街頭での演説、それで少なからぬ人は元氣になり、希望を持ち、一方で同じくらの数の人が憂えたり、傷ついたり、絶望したりしています。これを分断というのではないのでしょうか?そういうことにならない仕組み、そういうことにならない普通の日々の暮らしのこと、普通に肅々と公共の福祉、すべての人の基本的人權の尊重のために機能する仕組みを作りたいものです。

地方の議会では、立場は様々ながら、町の暮らしに寄り添った具体的な問題についてやり取りがなされています。地域密着の地元の議会、そこには派手な言説やパフォーマンスはないかもしれませんが、ぜひ一度、リアルな議会、見てみてください。



常任委員会報告

4月以降の委員会で左記の通り質問をしました。質問に対する理事者（市役所）の回答、他の議員の皆さんの質疑など、ぜひ左記のQRコードより動画をご覧ください。

私の担当は文教はぐくみ委員会。文化市民局、教育委員会、子ども若者はぐくみ局の3つの部局担当です。



①文化市民局への質問

Arts Aid KYOTO なら、市の文化事業について

(5月8日)

まず、京都市の文化遺産である二条城での桜のライトアップについて、しっかりと市民が楽しめる場になっているだろうか？
そして収益が文化財の保存に役立っているだろうか？
そんな視点で質問をしました。



質問要約

▼二条城の桜のライトアップ、一般企業の株式会社ネイキッドが運

営されていて、入場料と来場者数からすると1億円以上の収益かと思うが経費を差し引いた収益は株式会社ネイキッドのものになるのか？収支報告は来る？収益の何割かは二条城の運営保存などに活用されている？

▼今年度の会場では、スポンサー宣伝でデイズ二の「白雪姫」のプロジェクトが有料入場となっていた。今年度から試験的に始められたということだがこちらの主体は二条城？株式会社ネイキッド？入り口に「飲み物を買ったら芝生内に入れます」という看板があって、公共の施設内でこれはどうかと思う。具体的に市民割引も無いし、市民への還元の見点でもう少し考えてもらいたい。

続いて、「Arts Aid KYOTO * 都市連携・協働型文化芸術支援制」というメリットが企業間に偏っていないか、市民の活動支援にどの程度つながっているかという視点で質問をしました。

*Arts Aid Kyotoとは
ふるさと納税を活用し、アーティストなど文化芸術関係者の意欲的な活動を社会全体で支え、持続的な文化芸術の発展を目指す京都市の基金。



質問要約

▼Arts Aid KYOTO は事業認定型と通常支援型に分かれていて、事業認定型は21件。認定を受けた事業者がご自身で寄付を集められて、その寄付が一旦、京都市に入る。その70%を補助金として事業者に還元する仕組み。寄付をされた方は税制優遇を受けられる。残りの30%の使い道は？

▼Arts Aid KYOTO の2024年度の寄付総額は1億5,619万円。内訳は二条城のライトアップもされている株式会社ネイキッドが複数の企業から1億円を集められたということとかなりの割合を占めているが特定の事業者だけでなく、広く市民レベルでの芸術振興に役立っているか？

下鳥羽公園球技場における人工芝等の剥離、譲渡（再利用）支援等業務に関する公募型プロポーザルの実施について

(7月23日)

京都市は10年ほど使用した古い人工芝を希望する団体に無償譲渡していますが、最近の調査で海洋に流出するマイクロプラスチックの多

くが古い人工芝から出ていることがわかってきました。
無償譲渡はやめて産業廃棄物として処理すべきという視点で質問をしました。

質問要約

▼昨年、環境福祉委員会でも質問をしたが、古い人工芝の無償譲渡について、改めてお聞きしたい。近年の調査により、マイクロプラスチックの発生源の一つが人工芝であることが明らかになってきた。人工芝がすり減って細くなり、空気中を漂ったり、雨で流出して排水溝などから最終的に海へと流れ出すことが確認されている。環境省の令和5年度の調査結果によれば、古い人工芝から年間約240トンのマイクロプラスチックが海洋に流出しているという。環境省からも古い人工芝は産業廃棄物として処分をしてくださいというガイドラインが出ている。今回、人工芝を剥離し運搬する事業者さん選定の際にはマイクロプラスチック流出防止についてどのような確認をされたのか？



水をはじくためにフッ素化合物、PFASを使っているというところで、PFASというのは、雨が降ると流れていくので、地下水の汚染も気になるところ。また学校の方で、アレルギーのある方、化学物質過敏症の方は実際になかなか体育競技ができなかったという声を直接伺ったりしている。古い人工芝譲渡はリサイクル、経費節減の観点では喜ばれてきたのかと思うが、昨今の調査でマイクロプラスチックやPFASという公害の原因だということがわかってきたということで、今後は譲渡については、中止して産業廃棄物として処理をしたい。

②教育委員会への質問

京都市の
人権教育
について



(6月25日)

京都市の人権教育は学校ごとに計画書が作成されてそれに沿って進められており、学校ごとに違うようです。人権教育の重要性を確認する主旨で質問をしました。



質問要約

▼昨年9月の法務省の人権教育・啓発関係府庁連絡会議で「人権教育は、決められた授業がない、教科書がない、人権教育担当教員が必ずしも授業するわけではない、研修の内容をシェアする機会が少ない。人権に関する授業に向き合う姿勢に学校間や教員間で差が激しい」というヒアリング資料が出ていますが、京都市の市立小中学校、高等学校において人権教育は、学校ごとにどのように取り組まれていて、教育委員会はそれをどのように把握し、指導などをされているか？人権教育についての懇話会や審議会はありますか？

③子ども若者はぐくみ局への質問
様々な理由で親御さんと共に暮らせないお子さんの居場所として里親をされていたり、自立支援ホームを運営されている方に「教示いただき、質問をしました。」
(6月25日)



京都市の里親制度、児童養護施設、自立支援ホーム等の現状について
安心して居場所の選択肢が広がり、選んだ居場所によって待遇に差が出ないことを求める視点で質問をしました。



質問要約

▼施設や里親さん、自立支援ホームなどに入っているお子さんの現在の人数は？
▼里親登録の増減と委託数の変化は？
▼京都市の方針として里親さんを



視察見学訪問記

議会がない期間は、なるべく視察見学に向うようにしています。

6/11【京都市人権資料展示施設 ツラッティ千本】

京都市北西部に位置する千本地域において、同和問題をはじめとして広く人権問題を学習する資料館として1994年に開設されました。「ツラッティ」とは、「つらって」（一緒に連れ立っての意）という言葉がもとになっているそうです。展示室では、千本地域の歴史・教育・まちづくりをテーマとして、この地の先人たちの取組、地域で行われている様々な活動等を、古文書や写真、パネル、模型などが展示されています。

一般にも無料で公開されています。ぜひ行ってみてください。



7/3【交通局見学視察】

まず「は地下鉄竹田車両基地へ。広い！車両点検、整備、洗車、車輪の凸凹を削る作業など、日々、安心安全な運行のためにたくさんの職員さんが働いておられます。乗せていただいた新型車両にはバリアフリーで乗れる車両ができており、京都市の特産品の展示がされていたり、随所に北山杉や組紐が使われていたりなど、様々な工夫がされています。ホームからでなく地面から車両に乗せていただくには、ハンゴがいます。電車の屋根部分も初めて拝見。暑い中でお仕事をされる職員さんの健康への配慮もされながら、事故がないよう、1週間に一度の点検、2ヶ月点検、4ヶ月点検など綿密な点検がされています。午後からは市バス九条車庫に向いました。京都の市バス、観光混雑地域はベテランの運転士さんが受け持っておられるのかと思ったら、新人の方でも21日間の研修(指導員さんが同乗される、ニーズがあれば研修延長をされる)後は、新人の方も一人で運転をされるということです。当たり前前に乗客の安全安心のためにプロとして矜持を持ってお仕事されていて、感動でした。公費をしっかりと投入して支えていきたいものです。



7/2【みやこめっせ IVS2025 7/2-4 in KYOTO】

「日本最大級のスタートアップカンファレンス」というこちら。予算特別委員会で産業観光局担当なので見学ツアーに参加してきました。起業家と投資家、起業家同士、学生さんなどの交流場として大変な賑わいでした。参加費が高額なのに、またびっくり。様々なスタートアップ企業がブースを出されていて、複数のステージで同時並行でトークが企画されています。主催は株式会社 Headline Japan、京都府、京都市ということで、市長、知事も登壇。多国籍、多文化、多言語でした。世間では日本人優先的な排外主義が広がっているのかな？と思いきや、ビジネスの場では普通にグローバル思考なのだな...、社会は簡潔に語れるほど単純ではない。スタートアップ支援は行政のやることなのか？行政がやらなくても潤沢に資金が集まってくる場なのではないのか？という目線で見学に伺いましたが、この場に集う方々の熱気は想像を超えていて、その価値観やいかに？と、こちらの目線が単純でなくなったのでした。



7/18【世界人権文化研究センター】

京都市立芸術大学の7階にあるこの施設。京都府と京都市と商工会議所が出資しています。草の根プロジェクトの仲間と、京田辺市議の吉高さんも一緒に視察に伺ってきました。日本のみならず、アジアでも珍しい人権の研究施設で、現行憲法や国連の世界人権宣言の理念に則って運営されています。図書コーナーは、貸し出しもしていただきます。映画の上映会や講演会、市民講座もされていますので、チェックしてみてください。「選挙戦の中で外国人排斥など差別的な言説が目立っています。日本ベンクラブなどが声明を出されていますが、こちらの研究所からは出されないのですか？」と質問しました。声明は出されないのだから、残念です。人権尊重の道半ばで、ここにきて人権の定義そのものが危うい中、「ここは研究機関なので」と言っていないで、どんどん役立ってもらいたいものです。



ご意見・ご相談など お気軽にメールやFAXで お問い合わせください

毎週月曜日と火曜日は13時から18時まで事務局スタッフが
左京事務所におりますのでお気軽にご相談にいらしてください。
※不在の場合がございますのであらかじめお電話いただくと確実です。

お問い合わせ

✉ info@izaki-atsuko.net



075-204-6369

市民の声を
届けます！



この間の主な活動

草の根タウンミーティング

・「てびらこつぎっこ」上映会とお話し会 | 5/31

REPORT

東日本大震災後、お仲間と共に三陸海岸を巡り巡る野染めの旅を続けて来られた風の布パピヨンの齋藤洋さんと、その様子を撮影された映像作家の下ノ坊修子さんをお迎えし、映画を拝見してお話を伺いました。



・「居場所を創り育てるということ」宇野 明香さんお話し会 | 7/13

REPORT

「すべての人にハピネスを」の理念のもと、南区で子ども食堂、カフェ、シェルターなどを運営されている特定非営利活動法人happiness理事長・宇野明香さん。宇野さんはハピネスの活動に留まらず、里親さんとしても活動されています。宇野さんの活動拠点であるハピネスさんに伺い、おいしいランチをいただきながら、居場所を創り、育ててこられた宇野さんの実践について、お話を伺いました。



【ハピネスさんHP】
<https://happiness-world.jp/>

この間、井崎が登壇させていただいたトークイベントなど

・ KYOTOGRAPHIE

宍倉慈 × 井崎敦子

「パレスチナ京都：レシピから政治まで」

QUESTION 4F | 5/10

・ お米がない?! レクチャー & 市民対話

教育文化センター | 6/7



・ 関西令和の百姓一揆と食の未来 キャンパスプラザ京都 | 7/12

HPやSNSをご覧いただきご興味ある
会にはお気軽にご参加ください。



草の根プロジェクトでは定期的に議会報告会
やタウンミーティングを開催しています。



アンケートへのご協力ありがとうございました

草の根プロジェクトではこの夏、100軒を超えるフリーランスや自営業の皆様へアンケートのご協力をお願いしました。京都市には今、個人商店や自営業への支援予算がほとんどありません。一方で国民健康保険は値上がりしました。秋の議会までにお声をお聞かせいただいて、予算要望に活かしていけたらと思ってご協力をお願いしました。お寄せいただいたお声をしっかりと議会に届けて参ります。



サポーター会員募集中!

「井崎敦子と草の根プロジェクト」では、
一緒に活動・応援していただける方を募集しております。

1回1,000円(1年更新) 新規入会のお申し込みは、お名前(フリガナ)、住所(郵便番号)、電話番号、メールアドレスを明記して、info@izaki-atsuko.netにお送りください。

会員特典

- ・メルマガ「井崎敦子と草の根プロジェクトからのお知らせ」で活動内容をお届けいたします。
- ・井崎敦子と草の根プロジェクト事務所(一乗寺)のフリースペースを1回1,000円、収益が出る人は売り上げの10%でお使いいただけます。

京都市会議員 井崎敦子公式サイト
<https://izaki-atsuko.net>



SNSでも情報発信中!
ぜひフォローしてください

facebook : 井崎敦子と草の根プロジェクト
instagram : @atsuko_izaki



発行：井崎敦子事務所 左京区一乗寺中ノ田町 26-2 (辻公園向かい側)

井崎敦子の市会だより 第7号 2025年9月1日発行 テキスト：井崎敦子 イラスト：たにあいこ デザイン：美馬 智 編集：井崎敦子・美馬 智